

サステナビリティ関連データの「収集」に関する課題と対応の方向性

- 財務データほど収集体制が成熟しておらず、データ収集体制に関して様々な課題がある。
- 効率的なデータ収集のための社内体制の整備が必要であるが、その実現には、経営層の意識変革を促し、必要な予算措置を含め、経営者のリーダーシップの下、進めて行くことが重要。

主な課題

- 連結子会社や海外拠点からの収集における課題
 - ✓ 企業グループ内の連携不足（関連部署の理解が得られない等）
 - ✓ 連結ベースでの収集体制（仕組み、データベース等）が未整備
 - ✓ 対象拠点のマンパワー不足
- バリューチェーンに関するデータ収集における課題
 - ✓ データ提供者に対して支配力が無い。
 - ✓ 算定ルールが標準化されていない。
 - ✓ コスト・ベネフィットの観点からインセンティブが低い。
- 収集システムが未整備
 - ✓ エクセル中心の非効率な収集方法
- 社内マニュアルが未整備

対応の方向性

1. 効率的なデータ収集に向けた社内体制の整備

（１）組織・ガバナンスの整備

- データガバナンス体制の構築
- 業務分掌の設定
 - ✓ サステナビリティ関連情報・データを統括する部署の設置 など
- 企業グループ内の連携強化
- バリューチェーンに関するデータ収集への対応
 - ✓ 各社の実情に合わせ、step-by-stepで対応
 - ✓ 将来的には、国内外データ連携・共有プラットフォーム等との接続も視野に、相互運用性が高いシステムの開発
- 十分かつ適切な内部統制等の整備
- サステナビリティ関連データの収集に係る人材の確保・育成
 - ✓ データの特定、収集体制を構築できるスキルを有する人材の確保・育成
 - ✓ 社内のシステムエンジニアとの連携やデータアナリストの採用
 - ✓ 各部門・拠点でデータ入力を行う人材の確保・育成

（２）オペレーション・ITシステムの整備

- 業務プロセスの段階的・計画的な構築
- 網羅的かつ統一的な社内マニュアルの策定・運用
- ITシステムの利用割合の段階的拡大

2. 経営者の意識変革

- 予算措置を含め、社内体制の整備（上記）を経営者のリーダーシップの下、進めて行くことが重要。